

なきごえ



1969



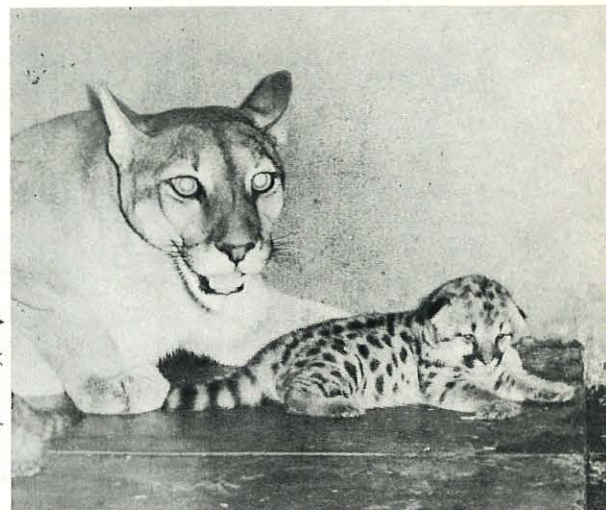
大 阪 市
天王寺動物園協会

動物園グラフ

8月にもライオンをはじめいろいろな赤ちゃんが
うまれました。



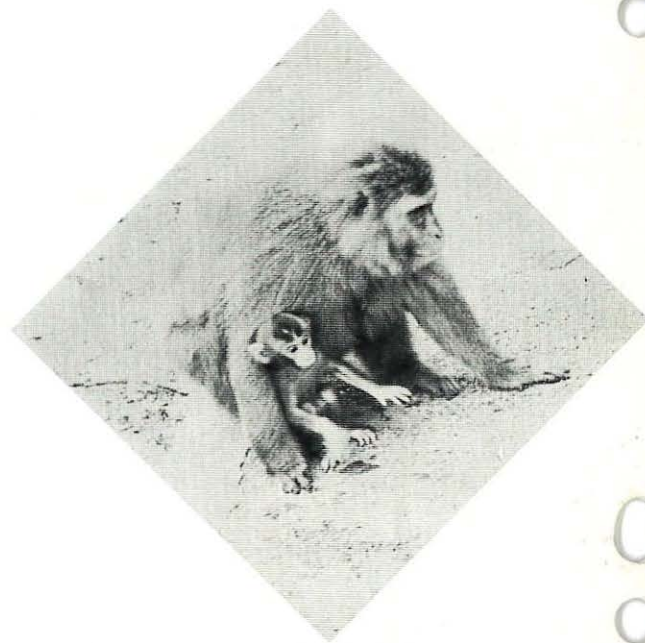
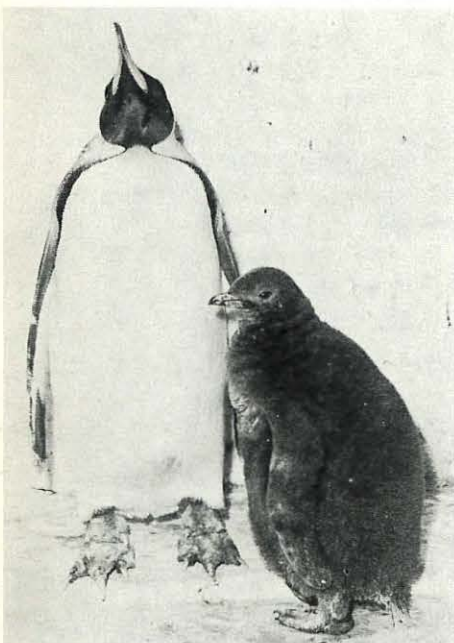
←ライオン
乳首を奮いあう赤ちゃん。お母さんライオンも満足そう。



ピューマ→
今年も2頭生まれましたが1頭はおしくも死にました。
写真は、おすの赤ちゃんですがすくすく育っています。

キングペンギン

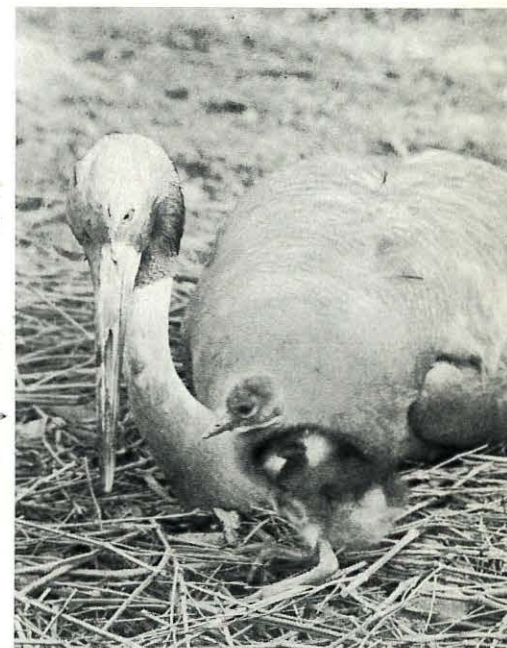
ひなは50日をすぎますますます大きくなりました。
まだまだ親の羽根のようにはなりませんぬくぬく
↓したうぶ毛がとてかわいいです。(既報)



↑ニホンザル
さる島脱出事件で広い島をおわれ今はさるアパートぐらし。今年はこちらでも4頭の赤ちゃんがうまれました。
♪早く島に帰りたいなあー。♪



←オオヅル
電気ふ卵器がお母さんです。1足先にかえて飼育のお兄さんに育てられました。
毎日園内を散歩しています。



オオヅル→
親に抱かれて33日間やっつぶ化しました。
♪お母さん早くえさをちょうだいよ♪

8月動物園日記

- 4 オオヅルの卵が電気ふ卵器でふ化しました。
- 8 ニホンシカの赤ちゃんが生まれました。今年4頭目です。
アグーチ(しかねずみ)の赤ちゃんが生まれました。
ライオンの赤ちゃんが3頭うまれました。
- 9 猛暑のため、ハクチョウの池の水も枯れはじめ、池のコイも暑さにグッタリです。

- 12 サイが交尾しました。うまく受胎したとすれば、540日後の再来年の2月に出産することになります。
- 14 キングペンギンのひなは発育が良好で、ふ化してからちょうど1カ月を経過したので、一般市民の方にも知らうため新聞発表しました。
- 15 ライオンの赤ちゃんは昼間のみ、親から離して人工哺乳をさせましたが、親が充分授乳させている様子なので、ずっとつけることにしました。

- 18 カモシカ園のハナシカが1頭死産をしました。
- 19 ラクダが寄生虫をわかしていたので、駆虫薬を与えました。
- 20 ピューマがおす、めす2頭の赤ちゃんをうんだが、21日になって、めすの方は惜しくも死んでしまいました。
- 21 アメリカバクのめすが入園しておす、めすがそろいました。
- 23 台風9号の被害はなく待望の雨で、動物たちは生きかえっ

- たようでした。
- 放し飼いのフラミンゴの翼の羽が長く伸びすぎたので、切ってやりました。
- 25 オオヅルが自然ふ化しました。
- 29 オオヅルのひな、2羽目がふ化しました。
× × ×
× × ×

動物たちの身にもなって!! (2)

私たちが最も注意を要するのは雨ふりの日である。入園者はまばらであるから人の目が少ないのを幸いにいたずらが多いのである。動物たちは雨にぬれるのはいやだからみんな軒のある隅でまるとなつてうずくまっている。客はどの動物もどの動物もこんな状態だからだんだんいらいらしてくるのであろう。客の方からすると雨の降るのに見に来てやっているのにとということだろう。

ブチハイエナという動物はアゴの力がすごく強く、太い動物の骨でもバリバリ咬みくだくので、アフリカではライオンの獲物のほとんど骨ばかりになったところを頂戴して生きている。このブチハイエナの檻にある雨の日に6本ものコーモリガサがつっこまれて、いずれもズブズブにさされていたという飼育担当者の報告があった。雨の日の客はコーモリガサをもっているからこれを檻にさしこんでいたずらする道具にしている。はじめは奥の隅にいたハイエナもうさんくさそうに立ち上って寄ってくる。客もはじめて動物に反応があったと思って興に乗ってくるのである。ハイエナがそんなに強い力であると思っていないから、口さきでチョイチョイと相手になっている。ハイエナは一瞬ガキッと咬みついたらもう万力ではさんだようにとれない。ズブーとカサは檻の中にひきこまれてしまう。もちろん、自分のいたずらからのことであるから傘をとられたことなど事務所に訴えてくるはずがない。だいたい、雨の日の客は遠方からの旅行者で、たまたま雨になったという場合か、子供と約束していたので、雨でもつれて来たという人、そうでなければ、動物がすきで雨の日の動物を観察しようとする人かいずれかである。しかし、場所がら雨で仕事にあぶれた労働者が入ってくる場合が多い。アブれたウッパンを動物に向ってはらしたり、ガラスを破ったりすることが多い。ニシキヘビは怖いものみたさというか、かなり人気のある動物である。夜行性だから昼間はちっとも動かないでドグロをまいているだけで、よく見ないとどこが頭だかシッポだか分からない。客はガラスをたたいて音でも出せばおどろいて動くかと思うのだろう。このガラスが一番よく破られるので閉口する。

ライオン、トラの猛獣はさすがに恐ろしい動物であることをみんな知っているから、柵の内側に入っていたずらする人はほとんどいない。また、ここはそんなことがあってはいけなから、一段

と高い柵と生ガキとまた柵と2重3重に濼に転落しないように配慮されている。しかし、ここでも2~3度酔ばらいがライオンとトラの仕切りの壁の上に登ったことがあり、ヒヤッとさせられた。

ライオンはアフリカの原地でもたいがいノンビリと木かげでねているようであるが、動物園では獲物をとることもないから、さらにグータラとなり、ゴロゴロねている。客はこんなのではおもしろくないから、ガーとかウォーとか盛んに大声でおどかさそうとする。だがライオンはヒゲ1本動かさずにいる。ついに小石をぶっつけるヤツも出てくる。全くライオンもたまらない。こんな客には濼がなかったらおどろかかかって咬みついてやるんだがなあーとライオンはきつと思っているに違いない。

サルは最も人気のある動物の1つである。人間に似ていてそのしぐさをみていてあきさせない。

とくにチンパンジーは愛きょうがある。小さいときには芸を仕込まれたものばかりだから、大きくなって放飼されるようになって愛きょうをふりまいてエサをねだっている。きちんと正座してオジギをしたり、手をたたいたり、オチョウダイといって手を合せて出したりするので、客は喜んでオカキやビスケットをなげる。チンパンジーたちは飼育係がいつも精選した餌を一定量だけ与えて厳重に健康管理をしているのである。だから客が食べものをあたえてほしくないわけである。中には食物でない異物を投げこむやつもいる。カンジュースの空カン、ミカンの皮、火のついたタバコ。おかげでチンパンジーがタバコを喫うようになってしまった。

私は、マンドリルというヒヒの仲間が投げこまれたタバコのすいがらをパクッと食べてしまったのに驚いてしまった。タバコのニコチンの猛毒は知っているから、これはてっきりやられたと思っていたが、その日も次の日もマンドリルはケロリとした顔でいる。人間ならかなりの障害が起り、命さえもあやういかもしれないのに何と丈夫なことよと感心させられた。しかし、こんなことは例外で、やはり動物たちにとって恐ろしいいたずらの1つである。(つづく) (樽本 勲)

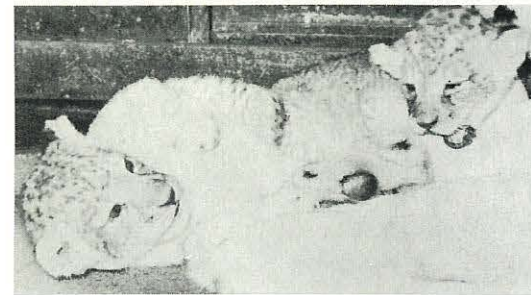
表紙の写真説明

ミオオオオハシ

南アメリカの熱帯のジャングルにいます。大きなくちばしは果実や小さい爬虫類をとって食べるのに便利だし、その彩やかな色は保護色となっています。

☆ライオンの赤ちゃん

8月8日の午後、運動場の洞穴でライオンの赤ちゃんが3頭うまれました。急いで、母ライオンを寝室に収容しようとしたが赤ちゃんから離れません。とうとうその日はそのままにしておきました。この母ライオンはこれまで7回ほど出産していますが、自分で育てませんでした。それで、今度もすぐに赤ちゃんをひきとつて人工哺育することに決めました。しかし2~3日ようすをみていますと今度だけは、母ライオンも赤ちゃんのめんどうをよくみて、お乳をたっぷり与えているようすなので、そのまま寝室で育てさせることにしました。おすの赤ちゃん1匹にめすが2匹でした。その後母乳をチューチューすってすくすく育っています。お母さんライオンも年をとつて落ちつきができたからうまく育てるようになったのでしょうか。親子づれで運動場に出る日が楽しみです。



☆大きくなったキングペンギン

9月13日でふ化後2カ月になります。まだ生まれたまの真黒いピロードのようなうぶ毛をしていますが、もう背はかなり大きくなりました。ピーピーなくとお母さんペンギンが大きな魚をはき出してろうつつして与えています。食欲が盛んなのでお母さんペンギンも大変です。(ニュースグラフ参照)

☆オーストラリアからハイイロカンガルー

オーストラリア政府が来年大阪で開かれる日本万国博に参加するのを記念して、オーストラリア特産のハイイロカンガルー5頭を地元大阪の動物園に寄贈したいと申出があり、今年12日海路はるばる大阪港に到着し、直ちに動物園のカンガルー舎に入れられました。

ハイイロカンガルーはこれまで、動物園にいなかったもので、動物園も大喜びで、大切に飼育したいとはりきっています。

☆オオヅルのひな誕生

オオヅルのひなが電気ふ卵器で人工ふ化し育っています。抱卵中に卵をネズミにとられることがあったので、

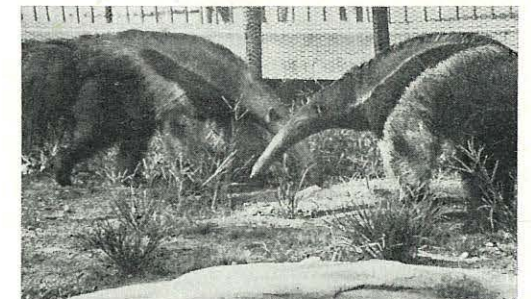


化し、親が大事に育てています。

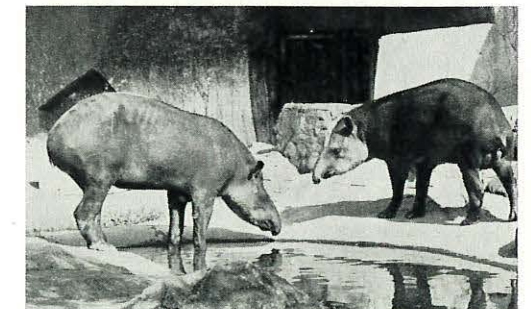
☆入園動物

アメリカバク、クロヒョウ、オオアリクイ、のめすが入園しました。これまで、これらの動物はおすがいるのみで、寂しがっていましたので、これで、にぎやかになり、赤ちゃんもうまれるでしょう。

また、ナベヅルも2羽が入りました。ナベヅルは山口県や九州の八代にしか飛来しなくなり、天然記念物として保護されているものですから、当園のツルの仲間としては、タンチョウ、クロヅル、について貴重なものです。



「オオアリクイ」 左がメス↑



「アメリカバク」 左がメス↑

キングペン
ひなは50
まだまだ親
↓したうぶ毛



8月

4 オオ
8 ニホ
アグ
ライ
9 猛暑
も暑

なきごえ 昭和44年9月15日発行（毎月1回15日発行）第5巻第8号（通巻50号）

編集人 / 加藤寿雄 発行所 / 社団法人大阪市天王寺動物園協会 大阪市天王寺区玉水町2

印刷所 / 株式会社 松村善進堂

電話 大阪 771-0201

定価 40円

